

令和8年度 第1回学校運営協議会 議事録

- 1 会議名 静岡県立熱海高等学校学校運営協議会 (第1回)
- 2 開催日時 令和8年6月26日(金) 13:30 ~ 15:30
- 3 開催場所 静岡県立熱海高等学校 会議室
- 4 参加者 学校運営協議会委員3名、管理職4名、熱海高校教員3名

5 会議の概要

(1) 令和8年度学校経営計画について

副校長 学校経営計画について説明。

(2) 各グループ長から学校の近況と学校経営計画詳細について

教務企画G:

出欠席状況、学校行事、本の貸し出し数、総合探究について。欠席日数は減っている。中学校で欠席が多かった生徒も出席できている。総合的な探究の時間について、昨年度は単発のイベント型授業になることが多かったが、今年度は、小目標として「学期や年間を通して長期的な視野を持ってテーマを設定する」、大目標として「探究活動を主軸とし、スクールミッション／スクールポリシー実現のためのグランドデザインの作成」を計画している。今年度も一日体験入学やオープンスクール、桃陵祭、年度末の地域探究発表会において総合的な探究の授業での活動をアピールできるように計画している。

委員B: 中学校で登校できていなかった生徒がなぜ来れるようになっているのか。

教員: 学年の対応が速いからだと思う。学年主任、副担任のフットワークが軽い。学校が楽しいと思ってくれている。

キャリア教育推進G:

人間的な成長につながる指導をしたい。家族を守れる生徒を育てたい。進学後、地元に戻って欲しい。昨年度は進路決定率100%であり、難しい生徒も手厚い指導で収束できた。地域貢献できる生徒を育てることも重要である。東伊豆は労働力の問題を抱えている。本社は伊豆、三島になくても支社があるところで働いている卒業生も多い。また、縁故や自己開拓が多いのも特徴である。昨年は四年制大学への進学者がいなかった。生徒の学力はもちろん、生徒の学習意欲そのものを高める工夫も必要。

生徒指導対策G:

生徒に対して「一緒にいたいと思ってもらえるかどうか」を一つの基準として考えてもらうよう話をしている。自分の考えを基準とするのではなく、まわりの評価を大切に身だしなみや挨拶、言葉遣い、態度などをするよう指導している。年度当初、全教員で生徒昇降口にて挨拶指導、登校指導を行っている。文化祭では今年も特別企画として地元企業からの協賛金を活

用した打ち上げ花火や、キッチンカーの招請、伊豆急ケーブルネットワークのバラエティー番組への出演など、校外への発信を意識した取組を積極的に行っている。

(3) 委員提言

委員 A：欠席が減っている。探究は生徒が楽しそうである。図書館からの発信が良い。居場所から切り込んでいくのが良い。

委員 B：オープンスクール等でのアンケートで、「どこから来ているか」、「どこと比較しているか」等を、生徒や親について探る必要がある。熱海高校の売りはどこなのか、どこがヒットしているのかを探りたい。私立との競争に勝たないといけない。

委員 A：分校化は免れない。分校になると、廃校へのスピードは上がるのか？

委員 B：高校は誰のものなのか。県教委が決めてよいのか。教育行政で留まらない話である。どうしたらみんなが納得するか。「この学校に行きたい」というのは個人的な選択であるので、(学校を分校化するかどうか等の判断には) 受検生徒数だけでない、別の判断基準が必要なのではないか。人任せではなく、地域の人頑張れば残せる。なくなることが決まってからあがいてもどうにもならない。地域全体でやる必要がある。

委員 C：探究については単発で終わらない、意欲を高める中長期的な視点が必要。学校に通うモチベーションを持たせたい。セブンイレブンなどの企業が出している財団等を利用するのもよいかもしれない。卒業後の進路については、少し上の先輩の話が、「少し先の未来」として生徒が聞くことができてよい。(年齢が離れていなければ) 卒業生以外でも良いのでは。

委員 A：四年制の大学にこだわらない視点は重要。就職後の調査が必要かもしれない。生徒はなるべくやめないで続けて欲しい。職場になじめない、ついていけない等の理由でやめる人が結構いる。

委員 C：おとなしい子が多い。自己肯定ができない。就職のことを考えると、アピールポイントが説明できないといけない。就職できるかどうかと、成績は必ずしも比例しない。

(4) その他

教頭: 次回の第2回学校運営協議会の日程は、10月24日(土)(桃陵祭当日)の予定。